

令和四年度 行信教校「真宗教学史」講義概要

講義テーマ（内容）

「近代（明治中・後期）本願寺派教学の思想史的展開」

担当 平田厚志

目的・ねらい

近代（明治中・後期）本願寺派教学史を思想史的視座から概観する。思想史的視座から見るということは、明治期の宗教思想（仏教、国家神道、教派神道、キリスト教、日本主義、西洋合理主義など）を有機的・対抗的な歴史的展開の総体として捉えるということであり、宗派教学史を概観する場合も、予定調和的に自己完結的に捉えることから自由でありたいと思う。そのような視座から捉えることによって、宗派教学の現代的課題を探りたい。

講義概要

- ① 明治中・後期の本願寺派教学史の思想史的展開の概観
- ② 反省会と『反省会雑誌』
- ③ 仏教大学と高輪仏教大学の分立
- ④ 明治天皇制国家の諸政策と教団の戦争協力
- ⑤ 海外開教と鏡如宗主のアジア主義
- ⑥ 明治期の部落問題と教団の対応
- ⑦ 明治真宗教学史の現代的課題

プロフィール

生年 1944年

出身地 山口県

専門分野 真宗思想史（特に近世・近現代）

関連分野

近世・近代思想史、日本文化史、日本仏教史

所属学会

龍谷大学史学会、仏教史学会、近代仏教史学会、日本史研究会

研究課題

「真俗二諦論」の歴史的展開と現代真宗教学の課題

編著書

著書『真宗思想史における「真俗二諦」論の展開』龍谷叢書IX、2001 年刊

編著『浄土真宗異義相論―「承応の閼牆」を発端とする本願寺・興正寺一件史料―』

龍谷大学善本叢書20、法蔵館、2008 年刊

編著『西本願寺宗意惑乱一件史料 第一巻』龍谷大学善本叢書30、法蔵館、2013 年刊